

事業報告書

1 団体名	糸島子どもにやさしいまち・子どもの権利研究会
2 事業名	糸島子どもの権利ミニフォーラム
3 実施期間	交付決定日から令和6年12月9日まで
4 事業実績 (日程・人数・会場等)	<p>※配布したチラシの枚数や参加人数等詳細にご記入ください。</p> <p>1. 子どもの権利ミニフォーラム(全4回)</p> <p>【第1回】</p> <p>講演「子どもにとっての居場所とは～子どもの権利と場のデザイン」 〈日時〉 令和5年8月27日(日) 13:30～15:30 〈会場〉 前原コミュニティセンター大ホール 〈参加人数〉 66人 〈講師〉 田北雅裕氏(九州大学講師、糸島市子どもの権利委員会委員長) 〈内容〉 「橋の下がお気に入りの居場所だった」と言う講師。話題にされないようなところが社会的に孤立し支援が行き届かない。このミドルランドスケープ(中間領域)に目を向ける必要がある。ちっぽけなことに目を向け、とにかく声を聴き続けることが、子どもアドボカシーや子どもの権利に繋がっている。それは大人が守っていかなければならない。守るには、仕組みづくりが必要で、仕組みとは手続きを明らかにすること。そのため条例か施策として実行されることが必要である、などの話があった。 また学校の中の子どもたちが意見表明でき、子どもの権利を学ぶキット「きかせてジャーニー」を作成中(現在、販売中)など、ツールの紹介もあった。 質疑応答では「子どもの権利を子どもに伝えるとき、何と説明したらいいか」「苦手な大人がいた時、どう対応したらいいか」など、具体的な質疑が活発に行われた。次から次に質問があり、関心の高さが伺えた。 〈参加者の声〉 「一番大切だと思う、守りたい「子どもの権利」は何ですか？」(アンケートより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の親以外に、言いたいことを聞いてもらう権利 親は「この子のため」という思い入れが強すぎ(愛と決めつけて)。子どもたちの本音を聞いてみたいです。 ・大人に命令されない権利 「先生が言ったから」「お母さんが言ったから」の子どもの言葉に疑問を持つから ・生命・生存・発達する権利 踏みにじられていることを耳にすることが多いから(例: ジャニーズ) ・こどもはこどもでいい権利 ・意見を表す権利。子どもの話を聞いてこなかった反省から <p>【第2回】 映画「ゆめパのじかん」上映会およびトークイベント 〈日時〉 令和5年9月23日(土) 午前の部(映画上映のみ) 10:30～12:00 午後の部(映画上映およびトークイベント) 13:00～16:30 〈会場〉 糸島市健康福祉センターあごら 視聴覚室 〈参加人数〉 午前43人/午後81人 〈午後の部講師〉 西野博之氏(認定NPO法人たまりば理事長、川崎市子ども夢パーク前・所長) 〈内容〉 神奈川県川崎市子どもの権利条例を元に、川崎市がつくった子どもの居場所「川崎市子ども夢パーク」(ゆめパ)の日常を描いた映画「ゆめパのじかん」上映会。午後は、映画上映の後、ゆめパ前所長であり、川崎市の子どもの権利条例策定にかかわった西野氏の講演会および意見交換会を行った。</p>

〈参加者の声〉「身近に取り組んでみたいことは？」（アンケートより）

- ・自分の子どもたちへの接し方。糸島で子どもの権利条例ができるなら、子どもの声を聴く機会をつくることに協力できたら。
- ・まず大人が変わり、システムを変えていくには、大人が日常に楽しみを感じる気づきができるようにまず対話から取り組んでみたい。
- ・友人と居場所づくりに向けて動き出したところです。居たいように居られる場所を目指して少しずつ頑張ります。
- ・子どもの意思を尊重したい。「こうでなければ」に捉われないように。
- ・何でも危ないからと言って子どもの学ぶ機会を奪わない。
- ・大人が幸せでいなければ、子どもを幸せにすることはできません。まずは自分自身が自分を好きで、幸せだと思える暮らしをしよう、と思います。いい人たちと繋がっていきたい。また、自分の身の回りにいる人たちに、この講演会で得たことを伝えていこうと思います。

※当日同時開催の子ども食堂による協力：いとしまこども食堂ほっこり

【第3回】一日遊び場 in 糸島

〈日時〉令和5年11月4日（土）11:00～15:00

〈会場〉前原コミュニティセンター及び前原小学校校庭

〈参加人数〉350人

〈内容〉子どもの遊び場、子どもの居場所を開催している糸島市内の団体と協力し、以下の遊び場やワークショップを行った。

①遊びのひろば（屋外：前原小学校運動場）

- ・自由な遊び場（協力：糸島わいわい広場）
- ・火を囲み焼きマシュマロ焼きやべっこう飴、焼き芋づくりなど（協力：いとしまの遊びばったい！）
- ・木工コーナー（協力：大松康氏、大松久美子氏、西尾氏）
端材を、のこぎりやトンカチを使って、自由に遊んだ。

②遊びと学びのひろば（屋内：前原コミュニティセンター 大ホール）

・自由な遊び場

段ボールや紙を準備、子どもが好きなように遊ぶ。大人は見守ったり、遊びのきっかけづくりを行った。

- ・しぜんこうさくこうじょう（協力：マイマイ計画）
- ・子どもの権利を学ぶワークショップ「子どもの権利おじさんに聞こう！」

講師：平野裕二氏（子どもの権利ネットワーク運営委員）

内容：子どもの権利カルタで子どもも大人も一緒に遊んで、子どもの権利を理解した。また、国内外の子どもの権利に詳しい平野氏に対し、子どもから、友達の家について相談があった。

③子どもによる出店（屋内及び屋外 計8店）

子どもたちが自らの発意で、出店の企画、準備、運営を行った。
バルーンアート、アクセサリー販売、ゲームコーナーなど

④昼食（カレーライス）の提供（前原コミュニティセンターを拠点に活動している子ども食堂の主催者やスタッフ有志による協力：ほっとカフェぬくもり寺子屋・Itoshima こども基地）

〈参加者の声〉（アンケートより）（ひらがな表記）

①出店者

1) お店をした感想は？

- ・おもったよりたくさんうれたのでよかったです。〔10歳〕
- ・お店のじゅんぴはたいへんだったけどたのしかった。
- ・みんながえがおでかえってくれてうれしかったです（10歳）
- ・またお店を出せる機会があったらいいな。〔9歳〕
- ・子どもに任せようと頑張りました。ついつい口が出てしまい反省。親が思うよりずっと頑張って、そして楽しんでいました。（保護者）
- ・なかなか子どもたちの準備が遅く、口を出したくなる場面が多かった

ですが、私も子どもたちも頑張りました！当日ドキドキでしたが子どもたちが本当に楽しんでいて「お客さんが来てくれた！」「赤字じゃなかった！」「〇〇円儲けてる！」嬉しそうに報告をしてくれました。

(保護者)

2) これからどんなことをやってみたいですか？

- ・今度はいじ引きのお店をしてみたい [10歳]
- ・またこのイベントがあったらさんかしたいです。(10歳)
- ・同じようなことがしたいです [11歳]
- ・また来年も「一日あそび場 in 糸島」をやりたいです (10歳)
- ・ポップコーンが作れる体験ができるといいな。(9歳)

②参加者

1) 【遊び場の感想】たのしかったこと、おもしろかったことはなんですか

- ・きでつくったのがたのしかった [6歳]
- ・工具・火を使うあそびはなかなかできないのでありがたいです (保護者)
- ・くじびき [6歳]

2) 【これから】どんなあそびばや いばしょが あったらいいですか

- ・きょうみみたいな (6歳)
- ・工作をできるところ (7歳)

3) 【こどものけんり】あなたがたいせつにしたいけんりは？

- ・かえりたくない。(7歳)

【第4回】

これからの糸島の子どもの遊び場、居場所、子どもの権利について

〈日時〉令和5年12月9日(土) 10:00~12:00

〈会場〉前原コミュニティセンター研修室

〈参加人数〉25人

〈内容〉全3回の事業のふりかえり、「子どもにやさしいまちってどんなまち？」をテーマに、ワールドカフェ形式で「子どものころ、どんな遊びをしていた？どんな居場所があった？」「遊び、居場所って一体何？何があればいいの？」「自分でまちをつくるならどんなまちにしたい？どんなことがあったらいい？」というテーマに語り合った。最後のまとめでは参加者一人一人が「子どもにやさしいまちで自分がやってみたいこと」「私が大切にしたい子どもの権利」について話した。

(参加者の声) (ワークショップでの発言より)

1) 「遊び」「居場所」とは？

- ・あそこに行ったら、「誰かがおる。」「遊びが始まる。」という場所。

2) 子どもにやさしいまちのために、自分がやってみたいことは？

- ・自分を大切にす。余裕を持つ！
- ・学びなおす場所をつくる。大人も子どもも。
- ・プレイパーク。自然の中での子どもの遊び場。

3) 私が大切にしたい子どもの権利

- ・やりたいと思ったことをやれる権利。どんな子も同じチャンス！
- ・選択権、選ぶ権利
- ・子どもにとって最善の利益。大人のよかれ、になっていないか。
- ・子どもが自由に遊びや好きなことができる時間を保障する。
- ・支配、管理されない子ども時代の保障 (大人の学びの大切さ)

2. 広報

①広報いとしまへの掲載

②SNS (Facebook、インスタ等) での情報発信

③チラシ 2万枚配布

・糸島市内の全幼稚園・保育園、全小中学校、高等学校に配布

	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島市内の子ども関係の施設に配架 ④協力団体による広報（口コミ、SNSでの発信など）
<p>5 事業の成果 (事業計画時の目的、目標に対する成果)</p>	<p>1. 参加した子どもたちについて</p> <p>①子ども自身が「やってみたい」ことを楽しむことができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回目出店準備の過程で、友人やきょうだいと意見の食い違いや摩擦が起こるなどで準備が滞ったりしたが、自分たちで解決策を見つけ、出店当日を迎えることができた。当日も出前販売や呼び込みの工夫をしていた。 ・段ボールや木工に熱中する姿が多くみられた。創意工夫や試行錯誤を誰からも邪魔されず、指導もされず、時間もたっぷりとして、思いっきりやり抜くことができた。 <p>②子ども自身で意思表示や相談ができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回目では、小学生から、子どもの権利おじさんへ「友達が保護者より暴力を受け、家出をしたいと言っている。小学生が家出をしたいときはどうしたらいいのか。どうなるのか。」という相談があった。本人がいなかったため、本人が相談したい場合の相談先などを伝えた。スタッフより、小学校など関係機関へ連絡を行った。又、遊びながら衝突が起こった時、近くに居たスタッフに「ちょっと一緒に来て」と声をかけ、静かな場所でその時の自分の思いを話していくなかで落ち着いて、遊びに戻れた子どもも居た。 ・第4回目では、小学生が「いじめ」について、中学生が学校での議論のあり方などについて、自ら自分の考えを語った。これまでの私たちの子どもの権利に関する活動の振り返りを聞いた後、少人数のグループでの話し合いを行ったことで、子ども本人も安心して話をすることができたようだった。周りの大人たちがしっかり話を受け止めていたので、話を否定されたり、割り込まれない経験ができた。 ・第1・2回で、子どもの権利を尊重した大人の関わり様、見守る姿勢について大人が学び、その上で、第3回の子どもの遊び場、第4回のワークショップを行ったことで、子どもが安心して自分から意見を言えたり試行錯誤できたりする環境づくりができた。アンケートや「わたしの気づ木」、ワークショップの付箋などにも率直な意見が寄せられた。 <p>③第4回目参加の中学生が、当団体への加入を申し出た。糸島市内中学校での自分の体験を基に、子どもの権利について共に学び、今後も糸島市の子どもの権利条例について関わろうとする姿勢を示した。</p> <p>2. 参加した保護者たちについて</p> <p>①第1回目、第2回目の講演や映画から、これまで見過ごしていた子ども自身の「自分で」「自由に」「やりたい」に気づくことができ、その価値や必要性についても理解ができた。</p> <p>②アンケート等で「『ああしなさい』『こうしたらいい』とつい口出しをしよう」と言う声が多かったが、スタッフとして参加した子どもの居場所やフリースクールのスタッフの声掛け方法を聞き、「子どもに対する声掛けの方法を学べた」と言う声も多かった。</p> <p>③楽しんでいる子どもの姿を目の前で見たことで、子どもが普段は見せない「好き」「やりたい」を見出すことができた。</p> <p>④リラックスする機会の提供や親の日常の子育てに対する負担軽減ができた3人の子どもを連れ、子のうち一人が赤ちゃんという親子が複数いた。上の子二人が遊びに熱中をしている間に、母親が赤ちゃんを抱っこしてベンチでぼーっとしている姿が見られた。「自宅から近い場所だから助かる」「大人の見守りがあるから助かる」「食事があるから助かった」と言う声を多く聞いた。三連休に赤ちゃんを含む子ども三人を連れて、母親一人で遊びにつれていくことはなかなか大変であり、親の負担を軽減しつつも、子どもたちが安心安全な場で、思いっきり遊ぶことができた。</p>

	<p>3. 参加した地域の大人たちについて</p> <p>①団体同士の支援や協力ができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな協力の獲得とネットワークの広がり 存在は知っていたが、繋がっていなかった団体同士が、協力したり、意見を交わしたりすることで、関係が深まった。 ・準備の段階で、小学校の運動場を使えるように学校と繋ぐ、プレイパーク運営の技術や備品の提供など、普段の活動の経験やネットワークを生かした協力をいただいた。 ・準備段階で協議を重ねたことで、お互いの活動内容や目指すものを理解することができた。話を重ねる中で、今後の活動のアイデアが出てきた。 <p>②子どもに対する態度や声掛けを見ることで、子どもの見守り、居場所づくりについてスキルアップができた</p> <p>4. 遊び場へのニーズがあることが分かった</p> <p>第3回目遊び場の日は、糸島市内各地で多くのイベントが開催されており、参加者が少ないのではないかと、という心配があった。結果的に想定の250人を大幅に上回る約350人が参加した。</p> <p>5. 行政と連携することの効果</p> <p>市民まちづくり提案型事業で実施したことにより、</p> <p>①連携がしやすい 小学校を貸してもらえた</p> <p>②広報がしやすいため、多くの人の手に情報が届く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミセンや図書館などの公共施設にチラシ配布できた ・チラシを全小中学校にも配布～子どもの手に最初に渡すため、子ども自身が「ここに行きたい」と言って親に言う <p>民間だけではこのような効果は難しいため、行政、民間、それぞれが得意な分野で連携することは今後も必要。</p>
<p>6 事業実施における課題等</p>	<p>1. 改めて見出された社会課題について</p> <p>①子どもが自分で考え、手やからだを動かして遊ぶ機会や場の不足 「トンカチやのこぎりを初めて使った」と言う子どもが多かった。親も「危ないのでさせていない」。糸島は自然の中で子どもが育つイメージがあるが、実際は外遊びをする場も少なく、ゲームに時間を割いている子どもも多い。意図的に、十分な時間を確保し、自由に子どもたちが手や身体を動かして遊ぶ機会が必要である。</p> <p>②子どもの「やりたい」「できる」を阻害する大人の干渉の多さ 子どもの出店の準備や店番を手伝っている親がいた。「子どもが自分でやる」と言う機会があっても、親が子どもを信頼し、任せることが難しい。まずは大人が子どもの声を聴く（子どもアドボカシー）とはどうゆうことか、子どもの持っている力を知って子どもを一人の人間として尊重すること（子どもの権利）を学ぶ機会が必要である。</p> <p>③子どもが相談したい、話したいと思える人や機会の必要性 子どもたちが学校や家庭では話せないことを、話す場面もあった。子どもが普段過ごしている場で、安心して話せる人(第3者を含む)がいることが、アドボケイトにも繋がる。</p> <p>2. 本事業の運営について</p> <p>①コーディネーター人材の不足 様々な人や団体を繋ぎ、一つのことを進めて行くためにはコーディネーター役が必要であるが、ボランティア団体のため、メンバーは仕事や学業があり多くの時間を割くことが難しく、一部のものに負担がかかった。</p> <p>②地域の方々との繋がりをあまり持てなかった。 子ども関係の活動団体とは、繋がりをもち協力関係を築けた。子どもたちの育ちを支えるには、身近な地域の人々の支援が必要だと考えるが、地域団</p>

	<p>体や地域の人たちとは、接点の持ち方が分からず、連携できなかった。</p>
7 今後の展開	<p>子どもの権利をより子どもたち、大人たちが、身近に感じ、活用できるよう以下の展開を考えている。</p> <p>①(一日)遊び場を開催し、今回よりもさらに、企画や運営に子どもが関わるようにする。出店も、準備段階から当日の片付けまで、できるだけ大人が手伝わず、子どもだけで運営を行うようにする。子どもが主体的に参加をし、やりたいことをできる機会を増やす。</p> <p>②子どもの権利について、大人が学ぶ場、機会を作る 子どもの権利について学んだら、普段の子どもへの向き合い方が変化することが分かった。子どもの権利を守れるかどうかは、大人の言動次第である。自分が住む地域で、子どもの主体性を大切にし、支え、見守りができる大人の存在が必要である。「大人が学びたい」と言う声も多数あったため、子どもの権利に関連する講座やワークショップを開催する。</p> <p>③地域団体の既存の活動（人権学習会等）の中に、子どもの権利の勉強会を入れてもらうなどの働きかけを行う。子ども会や児童委員、民生委員の方々との連携を少しずつでも作っていききたい。</p> <p>④草の根で繋がる、分かり合える団体とのネットワーク形成と協力関係の構築を継続する。市民にとってわかりやすい子どもの遊び場や居場所の情報提供の方法についても検討したい。</p> <p>⑤安心して話せる対話の場の定期的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回での質疑応答やワークショップの時間は、子どもも大人も、積極的、活発に意見交換をした。話すことで生まれる価値観やアイデアもあり、子どもの権利への理解が深まり、各地域での行動にもつなげていきたい。 ・「相談窓口」ではない、子どもがそもそもいる場所で、子どもが話したくなる機会を作る。 <p>⑥中学生から子ども同士で話せる場の開催の希望があった。今後共に考えていく。</p> <p>⑦更なる行政との連携 第3回一日遊び場開催では、使用する駐車場が教育委員会主催の行事と共有になり、連携して前原小学校の運動場を使うことができた。 今後、③に挙げた事項などについても、行政の協力を得ながらスムーズに進めていけることを希望する。</p>